

未来をつくるSDGsマガジン しなやかに、軽やかに活躍するローカルスター! 「ローカルヒーロー、ローカルヒロイン」の大特集

ソトコト

No.266
January 2023
SOTOKOTO

1019YEN



大好評!

ソトコト Online

sotokoto-online.jp



アクセスは
こちらから ▶



ローカルヒーロー、
ローカルヒロイン
U30図鑑

—
サステイナブル・
ブックガイド
~自分を見つける本~

Local Hero,
Local Heroine
U30

『JOHNSON TOWN®』

住所：埼玉県入間市東町1-6-1
施工年：2004年



職住近接から福祉まで。 社会的包摂をかたちにした、現代の理想郷。

埼玉県入間市に「米軍ハウス」が立ち並んだ、『JOHNSON TOWN®』というおもしろい街がある。この街には、パン屋、カフェ、レストラン、雑貨屋、本屋など個人経営のお店が点在し、家をアトリエや事務所と兼ねて使っている人もいる。街の魅力の核となる「米軍ハウス」は、GHQの要請によって1950年代初頭につくられた。日本各地の「米軍ハウス」が次々と解体されていく中で、この街にはなんと23棟も残されている。この街の再生が始まった1996年の段階では老朽化し、スラムのようだったというから、「米軍ハウス」の可能性を信じて、保存して磨き上げることを選んだオーナーの磯野達雄氏と建築家の渡辺治氏の、価値を見抜く力には驚くばかりだ。「米軍ハウス」の良い部分を観察してみよう。まず家と家の間に境界線のようなものがなく、フットパスでゆるやかにつながっているのが気持ちいい。街全体が公園のようである。家の形も素晴らしい。正方形に

近く、リビングダイニングと寝室・水回りがゆったりと計画されている。玄関と勝手口の2つの出入り口があるので店舗併用住宅にやすく、本場アメリカ仕込みの木造トラス構造は、極めて合理的な架構である。『JOHNSON TOWN®』には、渡辺氏が「米軍ハウス」を分析して改良した「平成ハウス」棟も39棟立つ。空間だけでなく、街の運営の方針も素晴らしい。外部空間については街全体の調和と統一をていねいに維持しながらも、内部空間については賃貸なのに原状回復の原則に囚われず、住人が磯野氏と対話しながら魅力的な改修をコツコツ重ねている。住む人たちの人間の魅力が、街の風景としてコラージュのように描かれ続けている。その暮らしの風景の寛容さによって、子育て世代からシニア、そして障害者の暮らしまでの多様な価値観が包摂され、働きながら住むことを可能とする。現代の理想郷のような街である。

藤原徹平

ふじわら・てっぺい ● 建築家。1975年横浜生まれ。2009年より『フジワラテッペイアーキテツラボ一級建築士事務所』主宰。2010年より『一般社団法人ドリフターズインターナショナル』理事。建築、地域計画、まちづくり、展覧会空間デザイン、芸術祭空間デザインと領域を越境していくプロジェクトを多数手がける。2012年より横浜国立大学大学院 Y-GSA 准教授。受賞に横浜文化賞 文化・芸術奨励賞など。

